賀川豊彦「献身100年」

時超え輝く生協の理念

支え合って互いに向上

明治、大正、昭和と時代の荒波の中、賀川豊彦は「弱い立場の人」に寄り添い生きた。時に労働者のためデモの先頭に立ち、時に貧しい農民のため組合を作り、「コープこうべ」設立の立役者ともなった。キリスト教の精神に根差した救貧・防貧活動と社会事業は、教育から医療、各種共済事業、生活協同組合（生協）運動と多岐にわたり、現代に豊かな実りをもたらしている。賀川が神戸のスラム街で救貧活動のために献身し、社会運動家としての一歩を踏み出したのは、1909年12月24日、21歳だった。今年はちょうど「献身100年」。賀川とゆかりあるコープこうべなどの関係者に話を聞いた。

1951年3月　日本生活協同組合連合会創立総会

米騒動に衝撃

「コープこうべ」の出発点は1921（大正10）年、今から88年前にさかのぼる。

当時、米価が急騰し、困窮した民衆の暴動が日本各地で起こった。いわゆる米騒動で、それに衝撃を受けた賀川は、消費者同士で少しずつ負担、質のよい商品を適正な値段で供給し、生活を安定させることができる組合づくりを考えた。

この考えに賛同した実業家の福井捨一、那須善治、平生釟三郎らが協力し、「神戸購買組合」と「灘購買組合」がそれぞれ生まれた。

この2組合が1962（昭和37）年に合併し、1991（平成3）年に「コープこうべ」と名を変えて、今日に至っている。現在、組合員数は140万人を超え、単一生協としては世界最大の規模を誇っている。

「3つの誓い」

コープこうべ職員の一日は「3つの誓い」の唱和で始まる。「働きあい捧げあうコープの心を心とする」、「生協は組合員のものであることを肝に銘じ、組合員への奉仕に徹する」、「生活の安定と向上を目指す生協活動を通じ、健全な社会づくりに献身する」。賀川豊彦の精神を今に伝える言葉だ。

賀川が生きた100年前の日本は、今では考えられないほど、生活困窮者が多かった。不安と混乱の時代に生まれた生協は、少しでも「生活の安定と向上」「よりよい暮らしの創造」を目指すものだった。かつてと異なっているものの、格差と貧困は増大し、形を変えて「食」の不安の種は尽きない。

例えば、食品添加物。生協はいち早く厳しい品質基準を作り、メーカーをリードしてきたという自負を持つ。消費者の立場になり、生協自らが、食品衛生法の改正を迫ったことも。また、今や流通業界で当たり前となった自社ブランド（PB商品）の開発も、生協は50年も前からコープ商品として立ち上げている。

独自ブランドの一つ「人と自然にやさしい食べものづくり」を目指す「フードプラン」では、農産物や水・畜産物などの栽培、育成に独自の厳しい基準を設け、賛同する契約農家と協力し、より確かな、安全な食材の提供に心を砕く。食べる人だけでなく、作る人にも安全で、環境に配慮して生産された商品であり、そこには、まさに賀川の理念が生きている。

生協は環境活動にも力を入れ、マイバック持参運動も広く実践し、世間に「環境保全運動」の流れを生み出した。また、働く母親への子育て支援活動や福祉活動、平和を守る活動など、さまざまな社会活動を展開し、広がりを見せている。

最近では、水害に襲われた兵庫県佐用町の被災地支援のため、いち早く募金活動を行った。これは賀川の願った「助け合い」の精神に基づくものだ。県民の約60％以上が組合員となり、しっかり地域に根付いた生協の活動を見れば、賀川は喜んだにちがいない。

原点を見つめ

しかし、昨今の経済不況は厳しい。生協も例外ではなく、競争の荒波にさらされている。こういう時代だからこそ、あらためて賀川の理念を大切にし、よりよい暮らしの担い手として生き抜いていく手段を模索中だ。

生協の大きな強みの一つに、宅配事業の実績が挙げられる。御用聞きから発展してきたといい、その利用者数は他の追随を許さない。生協では配達担当員を「地域担当」と呼んでいる。単に商品を届けるだけではなく、一人暮らしのお年寄りなど利用者の生活を見守る役割も果たしていることもあり、組合員から「コープさん」と親しまれている。

「賀川豊彦献身100年」の今、深刻な経済不況や高齢化などさまざまな不安が広がる中、コープこうべは、だれもが安心して暮らせる社会を目指した賀川の理念を次代へ伝えるため、「生協の原点にあらためて立ち返り、生協らしい事業のあり方を追求する改革に乗り出す」としている。

恩師マヤスと

灘購買組合役員会（1939年）

神戸消費組合の建物（1948年）

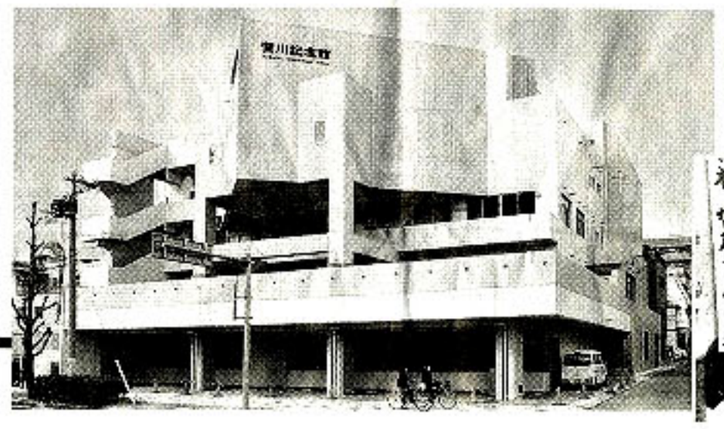
神戸消費組合の関係者らと

日協

生協職員らを前に話す

講演する賀川豊彦

賀川豊彦（かがわ・とよひこ）1888（明治21）年、神戸市兵庫区生まれ。幼少期に両親をなくし、徳島県の親せき宅へ。14歳で、アメリカ人宣教師マヤス氏に出会い洗礼を受ける。神戸神学校などで学んだ後、神戸で救貧活動を始める。米国留学後、労働運動、農民運動、生協運動など社会運動に身を投じる。戦後は平和運動のリーダーとして活躍。作家としても知られ、ノーベル平和賞、文学賞の候補にもなった。1960（昭和35）年死去。



建て替えが完了し来春オープンする「賀川記念館」＝神戸市中央区吾妻通5

新日本建設キリスト運動での講演

心豊かに生きる拠点に

賀川記念館リニューアル

社会運動家としての膨大な仕事、事業に込められた熱い思い、現代に通じる理念…。賀川豊彦の残した数え切れない財産を未来へ継承する拠点「賀川記念館」（神戸市中央区吾妻通5）の建て替えが完了し、来春、「賀川記念館ミュージアム」が館内にオープンする。

同所にあった旧記念館が老朽化したため、同館を運営している社会福祉法人・学校法人「イエス団」が「献身100年」を機に建て替えた。また、豊彦の孫で、グラフィックデザイナーの賀川督明さんが来春から館長に就任し、祖父たちの仕事の継承と紹介に一役買う。

新記念館は鉄筋5階建て。豊彦の資料や写真を並べて紹介するだけではない。子どもからお年寄りまで心豊かに生きるための拠点とし、多彩な取り組みを企画する予定という。

1階には医療施設などが入る。かつて医療と福祉は一体だったが、いつの間にか分かれてしまった。心と体を一緒に支える施設とすることが「開設準備委員会」で協議された。

2、3階は「イエス団」の本部、保育園「友愛幼児園」が入る。4階に「賀川記念館ミュージアム」、総合研究所が設けられ、豊彦の残した膨大な資料、文献などを保管・展示し研究する。5階は牧師の居住スペースとなる。

督明さんは「人を助ける人はたくさんいる。でもなぜ、豊彦とその仲間たちがここまで支持を得て、これだけの事業を成し得たのか。それは人づくりを大切にして、実践したからと」とみる。

つまり、貧困から抜け出し、誰かに頼らずに自立するには、豊彦は何よりも「教育」が必要と考えて、各地に学校をつくった。そこから、後に豊彦のブレーンとなる多くの人材が育っている。

この豊彦の精神にならい、督明さんは新記念館でも、「学びたくても学べない人、引きこもっている人たちに寄り添って、寄り添う人も共に、学びの機会をつくっていきたい」と考える。

「豊かさとは何か。それは生きる工夫の蓄積ではないか」と督明さん。便利さや効率を追い求め道具や機械に頼りきりでは、自らの何のストックにもならない。「困ったり悩んだり、創造したりして自分に中に〝貯金〟する。それがその人の豊かさそのものだ。このことを豊彦がとうの昔に語っていたのを知って、驚いた」そうだ。

高度経済成長期を経て経済優先で走る時代となり、豊彦の声はいつしかかき消されがちだった。しかし、今再び、豊彦の残した理念、足跡に、新たな光を見いだす時なのかもしれない。記念館はこれからの100年を見据え、視界を広くし、事業を展開していく方針だ。

賀川豊彦様

今から100年前、あなたが神戸にまいた友愛の種子は
幾多の困難を乗り越えて、日本中に根を広げ
この国のいたるところで豊かな枝葉を伸ばしています。
そんな枝葉の最初の一つが
コープこうべの前身、神戸購買組合と灘購買組合でした。
その事実は、私たち140万人の組合員にとって
今も大きな誇りであり、喜びです。

あなたの献身から一世紀を経た今
コープこうべが掲げる「愛と協同」の精神は
阪神・淡路大震災はもちろんその後の混迷の時代に
ますます求められるものとして
安全・安心な商品の供給から環境、福祉、子育て、
平和などの分野にも広がっています。
それでもなお、あなたの運動の原点となった
社会の貧困と格差は、容易に解決のきざしを見せません。
あなたが掲げた人間愛の理想を継承し
たすけあい、誰もが安心して暮らせる社会の実現をめざし
私たちはこれからも、着実に歩み続けていく決意です。
「一人は万人のために、万人は一人のために」

あなたの思いを受け継ぐ
140万人の組合員の活動を
これからも天国で、
見守り続けてください。

2009年12月、クリスマスの日を前に
生活協同組合コープこうべ

CO-OP 生活協同組合コープこうべ　●ご意見・お問い合わせは「くらしの情報センターコープベル」0120-443100（9:00～18:00 年中無休）※携帯電話からは078-856-1000へお願いいたします。